

## (6) 第1種事業者の定期報告：考え方の例①

【例1】1年間で以下の木材等を木材関連事業者として譲受けをした製材工場Aについて

- ① 素材生産販売事業者 $\alpha$ から10,000 $\text{m}^3$ の国産丸太を購入（全量が合法性確認木材）
- ② 素材生産販売事業者 $\beta$ から20,000 $\text{m}^3$ の国産丸太を購入（うち、10,000 $\text{m}^3$ が合法性確認木材）
- ③ 自社所有林から5,000 $\text{m}^3$ の丸太を調達（全量が合法性確認木材であり、全て製材に加工して譲渡しを行った）

◇Step1. 対象となる木材等の整理（第2種又は消費者として譲受けた木材等は対象外）

- ・ ①～③いずれも第1種として譲受けた木材であるため、全て対象

◇Step2. 対象となる木材等の単位の統一（木材については丸太換算も）

- ・ ①～③いずれも“ $\text{m}^3$ ”の丸太で統一されているため作業不要

◇Step3. 各区分の総量を求め報告の要否について確認

|     | 国産材<br>【区分1】        | 輸入木材等               |                   | 第2種事業者<br>又は消費者として<br>譲受けた木材等 |
|-----|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------------------|
|     |                     | 木材<br>【区分2】         | 家具・紙等の物品<br>【区分3】 |                               |
| ①丸太 | 10,000 $\text{m}^3$ |                     |                   |                               |
| ②丸太 | 20,000 $\text{m}^3$ |                     |                   |                               |
| ③丸太 | 5,000 $\text{m}^3$  |                     |                   |                               |
| 合計  | 35,000 $\text{m}^3$ | 0 $\text{m}^3$      | 0トン               |                               |
| 基準  | 30,000 $\text{m}^3$ | 30,000 $\text{m}^3$ | 15,000トン          |                               |

⇒ 区分1で基準以上となるため、全ての区分について報告の必要あり

◇Step4. 報告内容及び報告先

- ・ 譲受けた木材等の総量：区分1 = 35,000 $\text{m}^3$ 、その他の区分 = 0 $\text{m}^3$
- ・ 合法性確認木材等の数量：区分1 = 25,000 $\text{m}^3$

⇒ 木材のみを取り扱うため、農林水産大臣あてに報告

## (6) 第1種事業者の定期報告：考え方の例②

【例2】1年間で以下の木材等を譲受けをした合板工場Bについて

- ① 素材生産販売事業者から25,000m<sup>3</sup>の国産丸太を購入（全量が合法性確認木材）
- ② 流通事業者から5,000m<sup>3</sup>の製材を購入（うち、3,000m<sup>3</sup>が合法性確認木材）
- ③ 海外事業者から2,500,000枚の単板を輸入（うち、2,000,000枚が合法性確認木材）
- ④ 海外事業者から25,000m<sup>3</sup>の製材を購入（うち、全量が合法性確認木材）

◇Step1. 対象となる木材等の整理（第2種又は消費者として譲受けた木材等は対象外）

- ・ ①、③、④は第1種として譲受けた木材であるため対象（②は第2種として譲受けた木材であるため対象外）

◇Step2. 対象となる木材等の単位の統一（木材については丸太換算も）

- ・ ③の単板2,500,000枚 = 17,500m<sup>3</sup>（工場Bで通常用いられる丸太換算係数：0.007m<sup>3</sup>／枚を使用）
- ・ ④の製材25,000m<sup>3</sup> = 42,500m<sup>3</sup>（工場Bで通常用いられる丸太換算係数：1.7を使用）

◇Step3. 各区分の総量を求め報告の要否について確認

|     | 国産材<br>【区分1】         | 輸入木材等                             |                   | 第2種事業者<br>又は消費者として<br>譲受けた木材等 |
|-----|----------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------------------|
|     |                      | 木材<br>【区分2】                       | 家具・紙等の物品<br>【区分3】 |                               |
| ①丸太 | 25,000m <sup>3</sup> |                                   |                   |                               |
| ②製材 |                      |                                   |                   | 5,000m <sup>3</sup>           |
| ③単板 |                      | 2,500,000枚 = 17,500m <sup>3</sup> |                   |                               |
| ④製材 |                      | 42,500m <sup>3</sup>              |                   |                               |
| 合計  | 25,000m <sup>3</sup> | 60,000m <sup>3</sup>              | 0トン               |                               |
| 基準  | 30,000m <sup>3</sup> | 30,000m <sup>3</sup>              | 15,000トン          |                               |

⇒ 区分2で基準以上となるため、全ての区分について報告の必要あり

◇Step4. 報告内容及び報告先

- ・ 譲受けた木材等の総量：区分1 = 丸太25,000m<sup>3</sup>、区分2 = 単板2,500,000枚 製材25,000m<sup>3</sup>、区分3 = 0m<sup>3</sup>
- ・ 合法性確認木材等の数量：（例）区分1 = 25,000m<sup>3</sup>、区分2 = 単板2,000,000枚 製材25,000m<sup>3</sup>

⇒ 木材のみを取り扱うため、農林水産大臣あてに報告

## (6) 第1種事業者の定期報告：考え方の例③

【例3】1年間で以下の木材等を譲受けした商社Cについて

- ①素材生産販売事業者から20,000m<sup>3</sup>（全量合法性確認木材）の国産丸太を購入し、うち①' 100m<sup>3</sup>を自社で消費
- ②海外事業者から17,650m<sup>3</sup>の製材を購入（うち、15,000m<sup>3</sup>が合法性確認木材）
- ③海外事業者から30,000,000枚のフローリングを購入（うち、20,000,000枚が合法性確認木材等）

◇Step1. 対象となる木材等の整理（第2種又は消費者として譲受けた木材等は対象外）

- ・①、③、④は第1種として譲受けた木材であるため対象（①' は消費者として譲受けた木材であるため対象外）

◇Step2. 対象となる木材等の単位の統一（木材については丸太換算も）

- ・②の製材17,650m<sup>3</sup> = 30,000m<sup>3</sup>（商社Cで通常用いられる丸太換算係数：1.7を使用）
- ・③のフローリング30,000,000枚 = 24,000トン（商社Cで通常用いられる換算係数：0.0008トン／枚を使用）

◇Step3. 各区分の総量を求め報告の要否について確認

|         | 国産材<br>【区分1】         | 輸入木材等                |                        | 第2種事業者<br>又は消費者として<br>譲受けた木材等 |
|---------|----------------------|----------------------|------------------------|-------------------------------|
|         |                      | 木材<br>【区分2】          | 家具・紙等の物品<br>【区分3】      |                               |
| ①丸太     | 19,900m <sup>3</sup> |                      |                        |                               |
| ②製材     |                      | 30,000m <sup>3</sup> |                        | 100m <sup>3</sup>             |
| ③フローリング |                      |                      | 30,000,000枚 = 24,000トン |                               |
| 合計      | 19,900m <sup>3</sup> | 30,000m <sup>3</sup> | 24,000トン               |                               |
| 基準      | 30,000m <sup>3</sup> | 30,000m <sup>3</sup> | 15,000トン               |                               |

⇒ 区分2及び3で基準以上となるため、全ての区分について報告の必要あり

◇Step4. 報告内容及び報告先

- ・譲受けた木材等の総量：区分1 = 丸太19,900m<sup>3</sup>、区分2 = 製材17,650m<sup>3</sup>、区分3 = フローリング24,000トン
- ・合法性確認木材等の数量：  
（例）区分1 = 19,900m<sup>3</sup>、区分2 = 15,000m<sup>3</sup>、区分3 = 16,000トン

⇒ 木材及び家具・紙等の物品を取り扱うため、農林水産大臣及び経済産業大臣あてに報告